



若者同士の仲間作りをしたい!!

普及拡大副委員長
内山和彦

普及拡大副委員長、(有)ビルテクノサービスの内山です。どうぞ宜しくお願い致します。

当社は建築物の防水塗装・外壁改修の仕事を主にしておりますが、私は新事業として立ち上げた「オゾン発生器」の販売担当です。「オゾン発生器」とは衛生管理機器のひとつで簡単にいえば除菌・脱臭器です。食品関連会社・医療福祉施設・宿泊施設など、また、最近では車販売店での車検点検時のエアコン内部や車内消臭・救急車の出勤前の殺菌・県内約40箇所の保育施設でのウイルス対策など、様々な分野で普及しはじめています。

対象となるウイルスや臭いもそうですが、オゾンは目に見えませんが、お客様に伝える難しさのある商品なので、商品力も大切ですがお客様に信頼される人間力がなによりも大切になります。そんな苦労もありますが、これからの時代に相応しい安心安全な衛生管理方法だから自分で伝えたい、東北地区にも普及させたいと思つて父の会社

に転職した経緯もあるので、とにかくみなさんに知っていただけるよう全力を尽くしております。

池田会長とのご縁で、父が山形市蔵王に入会していただきましたが、仕事柄、始業が早くスリーピング会員でした。私自身は前職の時に蔵王の役員(普及拡大委員会)の方々と交流があり、入会のお誘いを受けておりましたが、会社の都合で入会できず仕方なくお断りしておりました。そこで、父の会社への転職をきっかけに、1年半ほど前ですが初めて参加させていただきました。

その後、3ヶ月ほどMSに通っておりましたら、池田会長から「普及拡大副委員長をお願いしたい」とお声がかかりました。父の会社に転職したばかりで、「防水の現場とオゾン発生器の拡販をしなくてはいいけないのに、役員としての働きが満足に出来るだろうか?」「現在の役員の方々は経営者の方々ばかりなのに、一従業員の私で大丈夫だろうか?」など、葛藤はありましたが、「自分自身の成長の為、経験した事の無い世界へ飛び込んでみたい」という気持ちもあり、父との相談の末昨年9月から役員をお引き受けし今日に至っております。

私は28歳、結婚して1年半。現在、妻と二人暮らしです。28歳の私からみた山形市蔵王は、社長さんや経営者の方が、社会生活の基本的なところを物凄く学んでおられる場所です。そういった先輩方を見ていると、自分も基本に返ることができ、また奮起させられる場所でもあります。私のように、本当はもっともつと若い人が来て学んでいい集まりだと思いません。純粋倫理は学校ではな

かなか学べない事です。し、社会経験の少ない若い人だからこそ必要であり、必要だから学ぶべきものではないかと思ひます。若いうちから倫理が身に沁みついていければ、その先ずつと良い習慣となり、あらゆる可能性が大きくなると思ひます。

会社の従業員は皆父世代で、私の年齢に近い人が全くおりません。また、職人さんは建築の方で、私はオゾン発生器の販売ですから、世間話も仕事の悩みなどもなかなか話せません。でも、土曜日にMS行けば同じような若い世代の方がいらつしやいます。最近では、年齢問わず仲良くしてくる方が増え、私にとってMSは思ひ悩んでいるときに元気を頂いてくれる場所なのです。

次年度から若い人が学ぶ機会として青年委員会が立ち上がります。若い人の為に是非頑張つてほしいです。私が初めてMSに行つたときは、迫力と雰囲気ビクビクしてしまひ、何をしたらいいかわからず、誰とも話さず講話だけを聴いて帰るといふのが続きました。そんな経験から、同世代の方や新しくMSに参加される方がいたなら、皆でかまつてあげて仕事の話でも世間話でもいいので、とにかく声をかけてあげたいと思ひます。そうすれば、仲間意識もできて次回から参加しやすくなるのかなと思ひます。

ます。私のように初めて参加された方がビクビクしてしまひ、その後スリーピング会員になってしまう方もいると思ひます。そういった方が、「この前初めてMSに参加した時に、仲良くしてくれた人がいたつけな」と思つていただければ自然とまたMSに足が向くと思ひます。

最後に家庭の話ですが、妻との接し方も倫理が変わつたと思ひます。結婚当初からどちらかという妻よりも弱い夫になりたくないという気持ちがあつて亭主関白気味だつたんです。妻がしている家事に口は出すが手を出さないという夫でした。

ところが、倫理に通うようになって、これはちよつと違うのかなと考へるようになりました。妻に口を出す前にまず自分から動く。自分がやれる範囲の家事を手伝うよう改めました。そうしたら妻にも余裕ができ、夫婦の話も増えて家庭が明るくなりました。また、妻のフットワークも軽くなり、前は言われたことだけをしていたのが、自分から気が自発的に動くようになりました。まず自分が実践することによって、周りの人も幸せになり、その幸せが自分にもかえつてくる不思議な経験ができました。倫理つて奥が深く素晴らしいですね。

8月のMS

- 8月7日(土) 第324回
『食で変わる人相・性格・人生観』
講師:パイオニアレッド
ウィングス
栄養トレーナー
山口喜代美 様
- 8月14日(土) 休会
- 8月21日(土) 第325回
『日本の大学をめぐる現状と山形大学の挑戦』
講師:山形大学
学長
結城章夫 様
- 8月28日(土) 第326回
『まずは自分が変わろう』
講師:(社)倫理研究所
北海道・東北方面
副方面長 川又久萬 様

7月のモーニングセミナー便り

「いつまでも自分の足で」

どこまでも

フットヘルパー山形 大場広美様

▼足にトラブルがないと歩くのが楽しくなり体もいきいきとした毎日を送ることが出来ます。▼フットケアを行う目的は「バランスのとれた歩行をサポートすること」です。▼そのため手段としては、次の3つが挙げられます。①足を清潔にする(指1本1本の間まで洗い、石鹸をきちんと流す)②爪を適切に切る(爪やすりでスクエアオフに)③足と心を癒す(ご家族の足を洗って揉んでさしあげると心が通い合い、とても喜ばれます)

「良い結果は原因つくりから」

(社)倫理研究所

法人スーパバイザー 荒井久満様

▼自分にとって倫理法人会のどんなところが良かったのかを振り返ってみますと次の3点です。▼人にやらせず自分で動いた。上手くいくことをまねた。良い人間関係作りの実験をした。▼人間関係を崩すのは相手ではなくて原因は自分にあります。人は基本的に動かない。ですからお知らせFAX1枚でMSに来てくださる方はどんなにありがたいことか。▼動かない人をどう動かすかを考えるようになって人間関係がスムーズにな

りました。

「大きな夢を持ち挑戦し続けること」

続けること

バンクーバー五輪出場
スキークロス選手 瀧澤宏臣様

▼私がメンタルトレーニングの中で教えられた、スポーツの世界で話です。▼正三角形を描きます。その頂点は世界一であったり、超一流の世界、目標や夢です。▼右の斜線が選手であり、日々練習して頂点へ向かっていきます。左の斜線がコーチや監督の意識です。▼選手と、コーチや監督との関係がしつかりできていて、一緒に頂点に向かっていくのが一番良い結果を生みます。▼しかし、これはよくあることですが、選手が頂点を目指していても、コーチや監督さんの意識があまり高くないと形の悪い三角形ができてしまい、選手はコーチや監督のレベルに引きずり降ろされてしまいます。▼もちろん逆の場合もあります。コーチや監督の意識は高いのですが、選手が世界一、超一流になるという意識が低くて、いかにコーチや監督が優れていてもうまくいかない場合もあります。これらのことが今回のサツカーワールドカップの強豪国と言われたチームにも見受けられていたように感じています。

「草創と守文と執れが難き」

(株)大商 代表取締役社長
小野木重弥様

▼父は創業者。希有なりリーダーであり、明るくて太陽のような、また機関車のようなイメージ。自分の思いを精一杯言葉に託して、また、気持ちを持ちを前面に出して物事を成し遂げていくわけです。▼私にはそれができません。組織が出来上がって、その中で人材をいかに適材適所に配置して新しい時代を切り開いていくか。▼重い石を持つのは楽だけれども、それを持つて歩くのは難しい。私のこれから歩まなければならぬ道というのはもしかしたら太陽の部分ではありませんが、むしろ陰日向関係なく、しつかりと重い石を持つて歩いていくのに等しい、創業社長と比べると何とも難しい部分になるのかなと感じています。▼守勢の時代も、草創の時代もいずれも難しいに変わりはないのですが、戦後の日本、その後の高度経済成長時代は過ぎ、当社も含めて、今は間違いなく本当の意味での守勢の時代に入りました。これからの守勢の時代を、幹部社員とともに乗り越えていかなければなりません。

「おやじの定番だ」

おやじ日本山形
代表 和田英光様

▼子供を母親まかせにしないで、駄目なものは駄目だと言えるのはおやじしかいません。▼だからおやじなんです。日本が壊れかけている今こそ、おやじの定番だ!



会長の元氣、モチアゲな話

第11回

おもてなしの心

7月はMS有休をいただき山仲間と年1度の県外遠征です。今年は長野の蓼科山2530m、霧ヶ峰山1925m、美ヶ原王ヶ頭2034mと日本100名山初級コースを欲張りにも三山トライしてきました。山頂からの眺めはいずれも抜群で富士山は雲隠れてしたが、八ヶ岳の峰々、北中央、南アルプス、浅間山と360度を見晴らす雄大な展望を満喫してきました。

折角なので帰りに国宝松本城を見学です。予想通り連休の観光客でごった返しており城内の見学は諦め、遅い昼食を信州名物の看板が目に入ったお蕎麦屋さんで取りました。入口前より行列で店内満席でしたが、並んでいる時からの注文取り、食事が済んだ席の手際の良い片付けと案内、蕎麦打ち、握り鮎職人さんの元氣な声、係員さんの明るい笑顔、待ち時間を感じさせませんでした。

会計欄に置かれている職場の教養を発見、納得です。店長お勧めおもてなしの心古城蕎麦セット(胡麻豆腐、鱈の握り3貫、虹鱈の円(つぶ)ら揚げ、信州蕎麦、デザート)を注文しましたがこれまた絶品で美味しく大満足です。

山仲間が店員さんにお茶を香されたのですが、帰りに若女将さんよりさりげなく蕎麦茶、信州味噌漬のお詫びを渡された本人士産ができた大感激です。お店の名前は城の正門前「川船さん」。松本の倫友よりおもてなしの心を頂いてきました。(蔵王会長池田修一)

